

ラドヤード・キプリング

12 エディの勤行^{おつとめ}

(A. D. 687)

『ごほうびと妖精たち』 — 「聖ウィルフリドの布教」より

聖ウィルフリドの弟子エディは
マンフッド・エンドの教会で
真夜中^{おつとめ}の勤行を呼びかけた
お参りしたいと願う者たちのために

だがサクソン人は^{びと}降誕祭^{クリスマス}を守る習わし 5
しかもその夜は寒風吹きすさび
いかにエディが鐘を鳴らそうが
訪れる者とてなかった

「こう荒れに荒れてはとても歩けたものではない」
こうマンフッド・エンドのエディは^{つぶや}呟く 10
「でも勤行^{おつとめ}だけはやらねばならぬ
信者の願いを思えば」

燭台^{あかり}に灯がともされた
そのときだ 年老いたロバが一頭やってきた
招かれたごとく堂々と 15
灯^{あかり}の蠟^{ろう}がたれるさまを見ていた

一陣の風が窓を打ち
雨滴が床を濡らした
すると雨に打たれ苦役に^う倦んだ雄牛が一頭
開いた扉から押し入ってきた 20

「わしにはものごとの
大事小事などどうでもよい
それは父なる神のなされること
ウィルフリドの弟子エディは言った

「だがこれで我等三者はここに会した 25
わしを話をよく聞くのだ
兄弟たちよ 共に福音を聞こうではないか」
マンフッド・エンドのエディは言った

エディは雄牛に^{まぐさおけ}秣桶のことと
そしてベツレヘムの牛小屋のことについて語った 30
エディはロバにはるばるとエルサレムに馬できた
賢者のことを語って聞かせた

ロバと雄牛は祭壇の前で湯気をたてて^{しづく}滴をたらし
耳をそばだて身じろぎひとつしなかった
その間もエディは彼等がまるで司祭であるがごとく 35
福音を語って聞かせたのだ

やがて沼地を吹く風もおさまり
窓から夜明けの光が差し込んできた
そして雄牛もロバもともに
向きをかえ足取り軽く帰って行った 40

サクソン人が^{びと}エディを^{わら}嘲笑ったとき
マンフッド・エンドのエディはこう返した
「わしは主の家を閉ざす気はない
お参りしたいと願う者たちのために」

(榊井幹生訳)